

文化庁 アーカイブ中核拠点形成モデル事業
ファッション・デザイン分野
最終報告書
(平成27~29年度)

*Agency for Cultural Affairs
Model Project for Development of Design Archives
Fashion Design Field
Final Report
(Fiscal Year 2015-2017)*

*Bunka Gakuen University
Laboratory for Japanese Dress Culture*

文化学園大学 和装文化研究所



ごあいさつ Greetings

文化学園大学和装文化研究所では、武蔵野美術大学美術館・図書館、京都工芸繊維大学美術工芸資料館とともに、平成27年からの3年間、文化庁委託事業「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」を進めてまいりました。

本事業は、日本国内のデザイン分野資料の収蔵機関を繋ぐネットワークを構築し、その資料に関する情報を収集・整理しデジタルアーカイブ化することによって、それら資料の利活用のための基盤を形成することを目的としています。

デザインを専門とするミュージアムが未だ存在しない日本において、デザインに関する貴重な資料は散逸や消失の危機にさらされ、また世界規模の文化振興への貢献が期待されるにもかかわらず、国内における所在情報の把握が難しく、活用が困難な状況にあります。このような状況に鑑み、本事業では、ファッション・デザイン、プロダクト・デザイン、グラフィック・デザインの三分野において、それぞれ収蔵機関間のネットワークを構築し、そこに集められた情報を集約して、国内のデザイン資料の横断的な利活用の促進と、デジタルアーカイブ化の普及啓発に取り組むこととなっております。

本報告書では、服飾資料のデータ化と、これらを蓄積したデータベースの横断化を目指したこれまでの調査・研究についてその概要を記し、得られた知見の一端をご報告したいと思います。

The Bunka Gakuen University Laboratory for Japanese Dress Culture has been promoting “the Core Archive Center Building Model Project” commissioned by the Agency for Cultural Affairs for the 3 years spanning the 2015-2017 fiscal years, along with the Musashino Art University Museum and Library and the Kyoto Institute of Technology Museum and Archives.

This project aims to form a foundation to utilize design materials by building networks among institutions that own materials in the field of design in Japan, collecting and organizing the information on design materials that each institution owns, and digitally archiving them.

The Bunka Gakuen University Laboratory for Japanese Dress Culture was responsible for investigating fashion design fields among these 3 fields.

目次 Contents

<i>About the Project</i>	事業の概要	4
<i>About the Fashion Resources</i>	ファッション・デザインについて	6
<i>Part 1. Activity Report of Fiscal Year 2017</i>	第1部 平成29年度の活動報告	
<i>Chapter 1. Collecting Information</i>	第1章 情報の収集	
<i>1-1. On-Site Research at Institutions with Fashion Resources</i>	1-1. 服飾資料収蔵機関への訪問調査	8
<i>1-2. On-Site Research of Institutional Archives</i>	1-2. アーカイブ機関への訪問調査	16
<i>1-3. Interview with Experts</i>	1-3. 専門家との面談	18
<i>1-4. On-Site Research of Unexplored Materials</i>	1-4. 未発掘資料の訪問調査	20
<i>1-5. Visiting Exhibitions</i>	1-5. 展覧会の見学	21
<i>1-6. Participation in Symposiums and Lectures</i>	1-6. シンポジウム・講演会への参加	22
<i>Chapter 2. Information Sharing and Considerations</i>	第2章 情報の共有と検討	
<i>2-1. In-House Meeting</i>	2-1. 所内会議	26
<i>2-2. Conference of Experts</i>	2-2. 有識者会議	27
<i>2-3. Liaison Conference among Three University Institutions</i>	2-3. 三学連絡会議	28
<i>2-4. Working-level Meetings among Three University Institutions</i>	2-4. 三学実務者会議	28
<i>Chapter 3. Project Achievement Report</i>	第3章 成果の報告	
<i>3-1. Holding Seminars</i>	3-1. セミナーの開催	30
<i>3-2. Reporting at Related Academic Conferences</i>	3-2. 関連学会における報告	32
<i>3-3. Holding Joint Symposiums by Three Fields</i>	3-3. 三分野合同報告会	34
<i>3-4. Launching Website and Disseminating Information</i>	3-4. Webサイトにおける報告	36
<i>Part 2. Project Achievement Report for FY 2015-2017</i>	第2部 3カ年を通じた成果報告	
<i>Chapter 1. Building a Network</i>	第1章 ネットワークの構築	40
<i>Chapter 2. Studying Archiving Methods</i>	第2章 アーカイブ手法の検討等	43
<i>Chapter 3. The Maintenance, Operation, and Utilization of Databases</i>	第3章 データベースの管理・運用、利活用	46
<i>Future Plans</i>	おわりに	48
<i>Appendix</i>	添付資料	
<i>I Questionnaire Form I</i>	I アンケート調査票 I	50
<i>II Questionnaire Form II</i>	II アンケート調査票 II	56
<i>III Survey Form to Survey the Outline of the Design Institutions</i>	III デザイン資料収蔵機関概要シート	60

事業概要 About the Project

本事業は、公募時の要領に沿って計画された以下4つの内容で構成され、中核拠点の置かれた和装文化研究所内での会議（所員5名、近藤尚子、田中直人、金井光代、中村弥生、ジュリア・ナシメントで構成。以下、「所内会議」という）にて検討をおこないつつ、進めた。

1. ネットワークの構築

・服飾資料収蔵機関への訪問調査

服飾資料を収蔵する国内24機関を訪問し、ネットワークの構築と館蔵品データベースの運営に関わる基礎調査をおこなった。訪問対象は資料の収蔵数、データベースの有無などを勘案しつつ、所内会議にて選定した。本事業に対する関心が示された機関については、引き続き連携が期待される「協力機関」として位置付け、継続的に情報交換をおこなうこととした。

・セミナーの開催

本事業の主旨を、服飾資料の収蔵機関関係者、研究者、学生により深く理解してもらうことを目的にセミナーを開催した。染織資料の研究、デジタルアーカイブの設計、デザイン資料の著作権の専門家に登壇頂いた。終了後、より密なる連携の構築を目指して情報交換会もおこなった。

2. アーカイブ手法の検討等

・所内会議における検討と論点の整理

所内会議では、如何なる情報が如何なる形で必要となるか（アーカイブ手法）、各館のデジタルデータを如何にして横繋ぎするか（横断化手法）の2点を中心として、調査にて得られた情報をもとに検討を進めた。検討事項のすべてに対し明確な結論を求めることはせず、有識者会議での議論や、協力機関との情報交換の際の議題として提示するための論点整理をおこなった。

This project follows the proposal submitted to a public call for research and is comprised of the four elements described below. Upon holding a conference of the five key staff members (Takako Kondo, Naoto Tanaka, Mitsuyo Kanai, Yayoi Nakamura, Julia Nascimento, hereinafter referred to as the “in-house meeting”) it was decided that the project should proceed.

1. Building a network

- ・ On-site research of institutions with fashion resource collections
- ・ Holding seminars

2. Studying archiving methods

- ・ Consideration and discussion points at the in-house meeting
- ・ Consideration at a conference of experts
- ・ On-site research of institutional archives
- ・ Participation in symposiums and lectures

3. The maintenance, operation, and utilization of databases

- ・ Survey on current situation of each database
- ・ On-site research of unexplored materials

4. Achievement report of this project

- ・ Holding symposiums
- ・ Report at the symposium organized by the Agency for Cultural Affairs
- ・ Joint symposium by 3 fields
- ・ Report at the related academic conference
- ・ Website launch and dissemination information
- ・ Creating a report

・ 有識者会議における検討

服飾資料に通暁し、学芸員としての勤務経験もある識者（長崎巖氏（共立女子大学）樋口一貴氏（十文字学園女子大学）澤田和人氏（国立歴史民俗博物館））を招き「有識者会議」を組織した。所内会議にて整理された課題をもとに、本学にて会合を開いた。ファッション・デザイン資料の対象範囲やアーカイブのあり方、データベースの横断化の進め方などについて検討し、今後の指針となる助言を得た。

・ アーカイブ機関への訪問調査

資料データの蓄積や公開に関し先進的な取り組みを進める諸機関を訪問し調査をおこなった。服飾に限定せず、見るべき内容があれば他分野であっても連絡を取り、話を聞いた。

・ シンポジウム・講演会への参加

アーカイブ構築に向けて、様々な取り組みを広く知るために、関連するシンポジウムに参加し、これを聴講した。

3. データベースの管理・運用、利活用

・ 各館データベースの現況調査

国内収蔵機関において、服飾資料の管理のあり方とデジタルデータ化の手法について調査した。また館蔵品データベースを持つ機関では運用・利活用の現状も調べた。機関ごとに異なる分類方法や登録名の整理がアーカイブ手法の検討を進めるにあたり参考となるため、適宜これを尋ねた。

・ 未発掘資料の調査

博物館・美術館などの専門機関の管理外にある資料について、所在確認と基礎的な調査、および資料情報のデジタルデータ化作業を進めた。

4. 本事業の成果報告

- ・ シンポジウムの開催
- ・ 文化庁主催シンポジウムでの報告
- ・ 三分野合同報告会
- ・ 関連学会における報告
- ・ Web サイトにおける報告
- ・ 報告書の作成

ファッション・デザインについて About the Fashion Resources

本事業における ファッション・デザイン

ファッション・デザイン分野のアーカイブとして如何なる資料を収集すべきかについて、所内会議および有識者会議にて検討した。ファッション・デザインについては現時点で明確な定義が存在しないため、今後の調査・研究の進展により内容が変化することも考慮しつつ、その対象範囲の大枠を暫定的に整理することとした。

資料が以下の要件を満たした場合にはファッション・デザイン分野のアーカイブの対象資料となり得る。

- A 被服、あるいは過去に被服であったもの
 - ※装身具を含む
- B 美しいもの
 - ※身体保護や温度調節といった機能性のみにならないもの

なお、対象となる資料群には次のようなものが考えられる。

収集対象案

着用物	衣服	着物
		袴
		帯
		ドレス
		コート
		靴下
		舞台衣裳
		戦衣
		その他
	装身具 ※付带的な物 (身に付けなくても 困らないもの)	髪
		帯留
		ヘアアクセサリ
		バッグ
裂	裂	
	その他	
その他	縫製雛形	
	その他	
非着用物	制作工程	見本帳
		ファッションプレート
		テキスタイル
		注文書
	入れ物	畳紙
		箱
	書類	契約等書類
		手紙
	その他	その他

Fashion Design Definitions

The fashion design resources considered in this project must meet both of the two following conditions below.

A Clothing or what was clothing in the past

※ Including accessories

B Beautiful

※ Not only functionalities such as body protection and temperature control

出版物	図録
	論文
	書籍
映像	作業風景
	インタビュー
	ファッションショー
その他	その他

左：1次資料

上：2次資料

第 1 部 平成 29 年度の活動報告

第 1 章 情報の収集

Part 1. Activity Report of Fiscal Year 2017

Chapter 1. Collecting Information

第 1 部では、本事業 3 年間の最終年度である平成 29 年度の活動について、それぞれの業務の性質から「情報の収集」、「情報の共有と検討」、「成果の報告」に区分、整理して報告する。

1-1. 服飾資料収蔵機関への訪問調査

On-Site Research at Institutions with Fashion Resources

ファッション・デザイン資料の収蔵機関との連携構築を目的として、平成29年度は国内の14機関を訪問した。この内、再訪問機関は5館、新たに訪問した機関は9館である。訪問機関の選定は、服飾資料の所蔵数、公開データベースの有無など勘案しつつおこなった。

【調査方法】

事前にアンケートを送付して回答を求めた上で、訪問しヒアリング調査をおこなった。

【主な質問内容】

アンケート調査票 I

服飾分野資料のデータベースに関する調査（添付資料 I）

1. 所蔵資料について

- ・ 所蔵数
- ・ 資料分類のあり方
- ・ 台帳作成手法

2. 自館のデータベースについて

- ・ データベースの有無
- ・ 公開非公開の別
- ・ 運用開始時期
- ・ 運用体制（スタッフの人数、週の作業時間数など）
- ・ 構築目的
- ・ 想定利用者
- ・ 公開資料の選定基準
- ・ 画像の取り扱い（無断転載への対応、有償利用制度の有無など）
- ・ 問題点

We visited 14 domestic institutions in FY 2017 for the purpose of building a network with institutions housing fashion design resources. Of the 14 institutions, 9 institutions were visited for the first time in FY 2017.

We selected the target institutions by examining the number of collections of fashion design resources and the presence or absence of a public database.

【Survey Method】

A preliminary questionnaire was sent, and a hearing survey was conducted with reference to the questionnaire.

【Overview of Questionnaire】

Questionnaire form I

Research on database of fashion field resources (Appendix I)

1. Collections

- ・ Number of collections
- ・ Classification methods
- ・ Ledger creation methods

2. Databases

- ・ Presence or absence of database
- ・ Published or unpublished
- ・ Operation start time
- ・ Operation system (number of staff members, number of working hours per week, etc.)
- ・ Construction Purpose
- ・ Assumed users
- ・ Criteria for selecting disclosure of information
- ・ Handling of images (dealing with unauthorized reprint, presence or absence of paid usage system, etc.)
- ・ Problems

3. Cross-institutional archive

- ・ Necessity
- ・ Valid search conditions
- ・ Data provider's request

Questionnaire form II

Research on collections of Japanese costume resources (Appendix II)

1. Collection of Japanese costume resources

- ・ Number of collections by period, category
- ・ Percentage of donations and purchases in the collection method
- ・ Collection policy

2. About exhibits and loans of Japanese costume resources held in the institutions

- ・ Frequency of exhibits and loans
- ・ Reasons not to display or loan

3. Handling of Japanese costume resources

- ・ Problems

3. 横断的アーカイブについて

- ・ 必要性の有無
- ・ 有効な検索条件
- ・ データ提供物として要望すること

アンケート調査票Ⅱ

和装資料の所蔵に関する調査（添付資料Ⅱ）

1. 和装資料の所蔵について

- ・ 年代、カテゴリー別の所蔵数
- ・ 収蔵経緯（購入・寄贈・寄託）
- ・ 和装資料の収集方針

2. 和装資料の展示・貸出について

- ・ 展示・貸出機会の有無
- ・ 展示・貸出をおこなわない理由

3. 和装資料の取り扱いについて

- ・ 問題点

【訪問調査先】

1. 共立女子大学博物館

調査日 2017年6月21日(水)
所在地 東京都千代田区一ツ橋 2-6-1
共立女子学園 2号館 B1F
対応者名 古川 咲氏(学芸員)

【List of Visited Institutions】

Kyoritsu Women's University Museum

2-6-1 Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo
Saki Furukawa (Curator)



2. 東京家政大学博物館

調査日 2017年7月20日(木)
所在地 東京都板橋区加賀 1-18-1
(百周年記念館 4F, 5F)
対応者名 太田 八重美氏(専門主査)
三友 晶子氏(学芸員)

Tokyo Kasei University Museum

1-18-1 Kaga Itabashi-ku, Tokyo
Yaemi Oota (Manager)
Shoko Mitomo (Curator)



3. J. フロント リテイリング史料館

調査日 2017年7月21日(木)
所在地 愛知県名古屋市中区栄三丁目 16 番 1 号
松坂屋名古屋店内
対応者名 加藤 順一氏(事務局長)

J. Front Retailing Archives Foundation Inc.

3-16-1, Sakae, Naka-ku, Nagoya-shi
Matsuzakaya Nagoya in-store
Junichi Kato (Deputy Secretary-General)



Marubeni Corporation

Tokyo Nihombashi Tower 7-1, Nihombashi
2-chome, Chuo-ku, Tokyo

Yoshitaka Taniguchi
(Manager, Real Estate Management Sec. &
Insurance Management Sec.
General Affairs Dept.)

Kanako Machida
(Administration Sec. General Affairs Dept.)



4. 丸紅株式会社

調査日 2017年9月26日(火)

所在地 東京都中央区日本橋二丁目7番1号
東京日本橋タワー

対応者名 谷口 善崇氏
(総務部 不動産管理課
(兼) 保険マネジメント課 課長)
町田 花菜子氏
(総務部 総務課)

Musashino Art University Museum & Library Folk Art Collection Room

1-736 Ogawa-cho, Kodaira-shi, Tokyo

Masaya Inomata
(Assistant Director, Group of Museum & Library)

Tetsuo Hiraide
(Chief, Museum Materials Section, Museum &
Library Group)

Saki Kameyama
(Folk Art Collection Room, Museum Materials
Section, Museum & Library Group)



5. 武蔵野美術大学

美術館・図書館 民俗資料室

調査日 2017年10月4日(水)

所在地 東京都小平市小川町1-736

対応者名 猪又 正弥氏
(美術館・図書館グループ
グループ長補佐)
平出 哲朗氏
(美術館・図書館グループ
美術チーム チームリーダー)
亀山 沙希氏
(美術館・図書館グループ
美術チーム 民俗資料室)

6. 岡信孝コレクション
須坂クラシック美術館

調査日 2017年11月1日(水)
所在地 長野県須坂市大字須坂 371-6
対応者名 廣田 華子氏 (学芸員)

Suzaka Classic Museum

371-6 Oazasuzaka, Suzaka-shi, Nagano
Hanako Hirota (Curator)



7. 田中本家博物館

調査日 2017年11月1日(水)
所在地 長野県須坂市穀町 476
対応者名 田中 和仁氏 (館長 / 学芸員)
田中 洋子氏 (副館長)

Tanaka Family Museum

476 Kokumachi Suzakashi Naganoken
Kazuhito Tanaka (Director / Curator)
Yoko Tanaka (Deputy Director)



8. 石川県立美術館

調査日 2017年11月2日(木)
所在地 石川県金沢市出羽町 2-1
対応者名 寺川 和子氏 (学芸第二課 学芸専門員)
村上 尚子氏 (学芸第一課 学芸専門員)

Ishikawa Prefectural Museum of Art

2-1 Dewa-machi, Kanazawa Ishikawa
Kazuko Terakawa
(Curator, Modern and Contemporary Craft Arts)
Naoko Murakami (Curator)



Kanazawa Noh Museum

1-2-25 Hirosaka, Kanazawa, Ishikawa
Maiko Yamauchi (Curator)



9. 金沢能楽美術館

調査日 2017年11月3日(金)
所在地 石川県金沢市広坂 1-2-25
対応者名 山内 麻衣子氏 (学芸員 (主査))

Fukui city history museum

3-12-1 Hoen, Fukui-shi, Fukui
Yoshimi Sasaki
(Curator of Japanese Fine Arts, Textiles)



10. 福井市立郷土歴史博物館

調査日 2017年11月3日(金)
所在地 福井県福井市宝永3丁目12-1
対応者名 佐々木 佳美氏 (学芸員)

Bunka Gakuen Costume Museum

3-22-7, Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo
Masaaki Sato (Deputy Director)
Kayo Murakami (Curator)



11. 文化学園服飾博物館

調査日 2017年11月9日(木)
所在地 東京都渋谷区代々木 3-22-7
対応者名 佐藤 正明氏 (副館長)
村上 佳代氏 (学芸員)

12. 神戸ファッション美術館

調査日 2017年11月28日(火)
所在地 神戸市東灘区向洋町中2丁目9番地1
対応者名 浜田久仁雄氏(事業課主査 学芸員)
中村圭美氏(学芸員)

Kobe Fashion Museum

2-9-1, Koyochi-naka, Higashinada, Kobe, Hyogo
Kunio Hamada (Chief Curator)
Tmami Nakamura (Curator)



13. 公益財団法人

京都服飾文化研究財団 (KCI)

調査日 2017年11月29日(木)
所在地 京都市下京区七条御所ノ内南町103
対応者名 新居理絵氏(学芸課 キュレーター)

The Kyoto Costume Institute

103, Shichi-jo Goshonouchi Minamimachi
Shimogyo-ku Kyoto
Rie Nii (Curator)



14. 京都工芸繊維大学美術工芸資料館

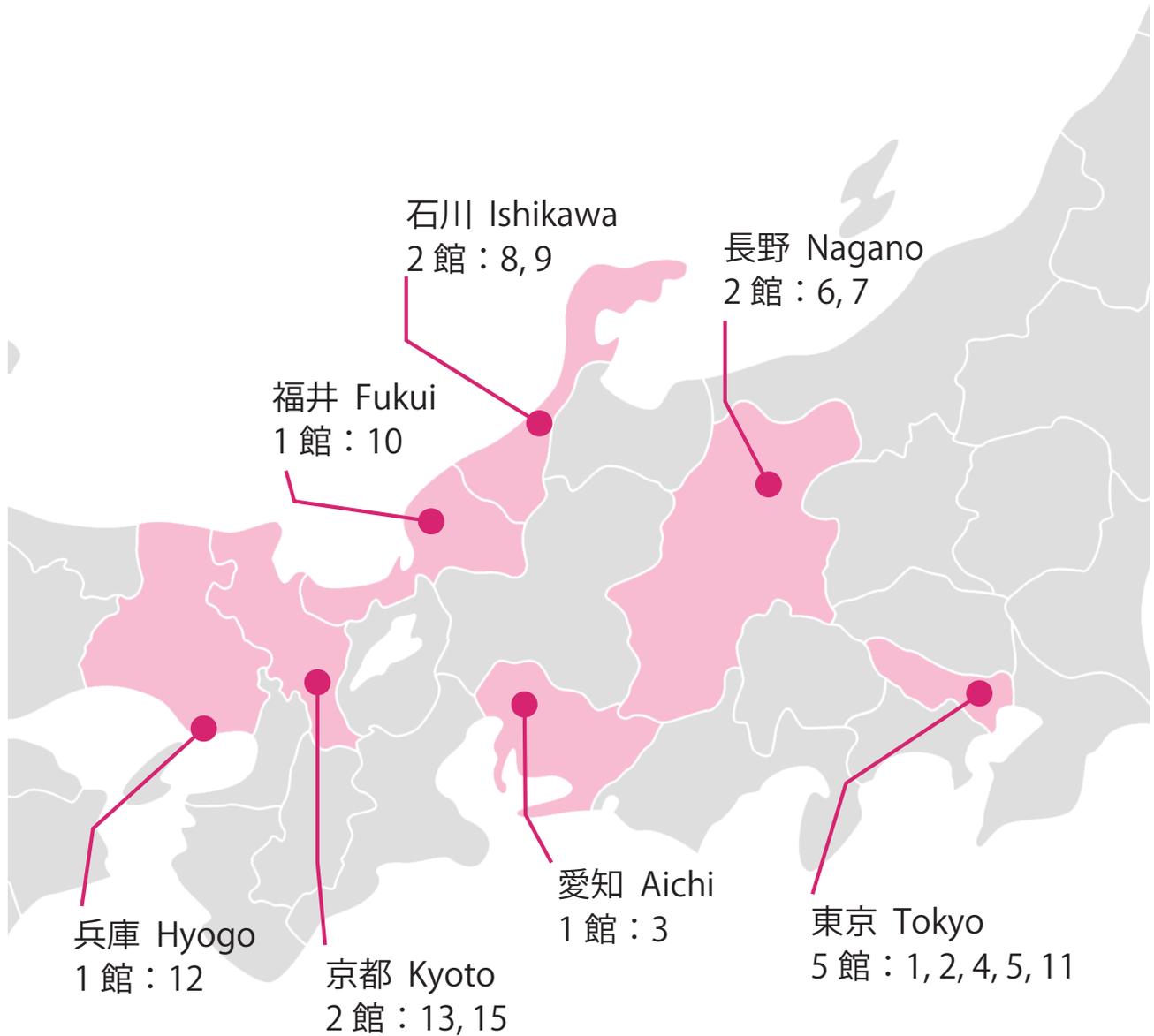
調査日 2017年11月29日(木)
所在地 京都市左京区松ヶ崎
対応者名 岡達也氏(技術補佐員)
加茂瑞穂氏
(日本学術振興会特別研究員 RPD)

Kyoto Institute of Technology Museum and Archives

Matsugasaki Sakyo-ku Kyoto
Tatsuya Oka (Administrative Aide)
Kamo Mizuho (JSPS Research Fellow)



訪問調査をおこなった機関



1-2. アーカイブ機関への訪問調査 On-Site Research of Institutional Archives

ファッション・デザイン分野のアーカイブ構築に向けて、参考とすべき先進的取り組み事例に関する調査をおこなった。

とりわけ重視したのは以下の2点である。

- A 同分野資料の収蔵機関間の連携のあり方について
- B 海外施設における、資料の公開と活用のあり方について

In order to build a fashion design archives, we visited and interviewed institutions that are making advanced efforts.

Particular emphasis was on the following 2 points:

- A Consolidating and releasing material data from cooperating organizations.
- B How to publish and utilize materials in overseas institutions.

【訪問施設】

1. 国立近現代建築資料館

調査日 2017年8月3日(木)

所在地 東京都文京区湯島 4-6-15

対応者名 高木 愛子氏 (建築資料調査官)
藤本 貴子氏 (研究補佐員)

【List of Visited Institutions】

National Archives of Modern Architecture,
Agency for Cultural Affairs

4-6-15, Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo-to

Aiko Takagi
(Senior Specialist for Architectural Documents)
Takako Fujimoto (Research Assistant)

2. The British Museum

調査日 2017年9月5日(火)

所在地 Great Russell Street London WC1B 3DG

Collections Services:

OXQ, 23 Blyth Rd, Hammersmith, London
W14 0QX

対応者名 Helen Wolfe (Textile Collections Manager)





3. Victoria and Albert Museum (V&A)

調査日 2017年9月6日(水)

所在地 South Kensington London SW7 2RL

The Clothworkers' Centre:

OXQ, 23 Blyth Rd, Hammersmith, London
W14 0QX

対応者名 Anna Jackson (Keeper, Asian Department)

Josephine Rout

(Assistant Curator, Asian Department)

Marion Crick (Head of Collections Management)

Joanne Hackett (Conservator)

Sonnet Stanfill

(Acting Snior Curator, Department of Furniture,
Textiles and Fashion)

博物館、美術館以外の施設における資料データの集約・公開の取り組みを知るため、本学を運営する学校法人文化学園内の3つの関連資料収蔵機関についてヒアリング調査をおこなった。

Bunka Gakuen Fashion Resource Center

3-22-1, Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo

Tamiko Ueda

(Director, Planning division and
Resource division)

4. 文化学園ファッションリソースセンター

調査日 2018年1月16日(木)、2月7日(水)

所在地 東京都渋谷区代々木 3-22-1 F館 B1階

対応者名 上田 多美子氏(企画室・資料室 室長)

Bunka Gakuen Library

3-22-1, Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo

Kenjiro Sejima (Library Director)

Hiromi Ozaki (Librarian)

5. 文化学園図書館

調査日 2018年1月17日(水)

所在地 東京都渋谷区代々木 3-22-1 F館 1階

対応者名 瀬島 健二郎氏(館長)

尾崎 弘美氏(司書長)

Bunka Research Lab for Fashion Textiles

582-11, Kitanomachi, Hachioji, Tokyo

Eiji Miyamoto (Director)

6. 文化・ファッションテキスタイル研究所

調査日 2018年2月6日(火)

所在地 東京都八王子市北野町 582-11

対応者名 宮本 英治氏(所長)

1-3. 専門家との面談

Interview with Experts

服飾資料収蔵機関への訪問、連携構築と並行して、関連分野に関する有識者との連携を構築した。

ファッション・デザイン分野のアーカイブ構築は従来に無い新たな取り組みであるため、実際に資料を収蔵する機関とともに、デザインあるいは資料情報の整理および活用に関する有識者からの支援が不可欠のものとなる。

そこで、これらの専門家と面談をおこない必要情報を得るとともに、これ以降も継続して助言を得られるよう依頼をした。

とりわけ以下の2点について意見を求めた。

- A デザイン資料としての服飾資料の価値について
- B 資料情報の効率的な公開のあり方について

【有識者との面談】

A

1. 菊池 理予氏
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
無形文化遺産部 主任研究員)
調査日：2017年5月11日(木)
2. 長崎 巖氏 (共立女子大学 教授)
調査日：2017年5月16日(火)、7月31日(月)、
10月3日(火)、
2018年1月29日(月)、2月9日(金)
3. 中川 麻子氏 (大妻女子大学 准教授)
調査日：2017年6月20日(火)、12月5日(火)
4. JUNKO KOSHINO 氏 (デザイナー)
竹田 季代氏 (JUNKO KOSHINO 株式会社 Director)
調査日：2017年11月30日(木)



We also built a network with fashion materials collection facilities as well as experts in related fields.

We asked opinions from experts about the following 2 points in particular:

- A The value of fashion resources as design materials.
- B Systems of efficient information disclosure of fashion resources information.

【List of Experts】

A

1. Riyo Kikuchi
(Tokyo National Research
Institute for Cultural Properties)
2. Iwao Nagasaki
(Professor, Kyoritsu Women's
University)
3. Asako Nakagawa
(Associate Professor, Otsuma
Women's University)
4. Junko Koshino (Designer)
Tokiyo Takeda
(Director, JUNKO KOSHINO
Inc.)



B

5. Hideki Kikkawa
(Tokyo National Research
Institute for Cultural Properties)

6. Soichi Tokizane
(Senior Visiting researcher, The
University of Tokyo)

7. Toshiaki Kobayashi
(Attorney-at-Law, Kotto Dori
Law Office)

8. Naoko Tokuhara
Satoshi Ymaguchi
Saori Nakagawa
(National Diet Library, Japan)

9. Mitsunori Nagacho
(Project Professor, The University
of Tokyo)

B

5. 橘川 英規氏
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
文化財情報資料部 研究員)
調査日：2017年5月30日(火)

6. 時実 象一氏 (東京大学大学院情報学環 高等客員研究員)
調査日：2017年7月25日(火)

7. 小林 利明氏 (骨董通り法律事務所 弁護士)
調査日：2017年8月29日(火)

8. 徳原 直子氏
(国立国会図書館 電子情報部 電子情報企画課 課長補佐)
山口 聡氏
(国立国会図書館 電子情報部 電子情報企画課 係長)
中川 紗央里氏
(国立国会図書館 電子情報部 電子情報企画課 連携協力係)
調査日：2018年2月22日(木)

9. 長丁 光則氏 (東京大学大学院情報学環 特任教授)
調査日：2018年3月26日(月)



1-4. 未発掘資料の訪問調査

On-Site Research of Unexplored Materials

研究者に未だ広く知られていない「未発掘資料」について、その所在と概要の把握を主たる目的として基礎的な調査をおこなった。

調査は、対象資料の専門家を中心に調査グループを作り、収蔵者のもとを訪れておこなった。資料の状態を確認し、法量の測定、資料写真の撮影、特記事項の記録などをおこなった。

得られた資料データは、本事業の主旨に沿って拠点にて管理をおこなうこととし、収蔵者からの許可が得られた資料については、公開に向けた準備を進めた。

なお、資料の所在把握を目的とする一方で、収蔵者からの求めがあった際には管理状況の改善についての助言もおこなった。これは、本事業がアーカイブの構築を手段にその検討を進めようとする、対象資料の散逸・消失をいかにして防ぐか、との課題意識に基づくものである。

豊橋魚町能楽保存会収蔵能狂言装束調査

調査日：1回目 2017年2月28日(火)～3月3日(金)
2回目 2017年9月18日(月)～20日(水)

調査員：長崎 巖(共立女子大学)

門脇 幸恵(独立行政法人 日本芸術文化振興会)

田中 直人(文化学園大学 和装文化研究所)

金井 光代(文化学園大学 和装文化研究所)

中村 弥生(文化学園大学 和装文化研究所)

調査資料：392点

特徴

- ・能装束は、旧吉田藩主、大河内家から明治7年(1874)に継承したものを核とする。
- ・狂言装束は、豊橋市魚町の鳥居家より昭和4年(1929)に受け継いだものである。

同調査にて得られた成果については、別冊『服飾分野の資料情報の発信に向けた基礎的調査(二) 豊橋魚町能楽保存会所蔵能狂言装束調査 報告書』を作成し、まとめた。

Resources not widely known were named “unexplored material” and surveys to seek out their locations were conducted.

Research on the Costumes of Noh & Kyogen Collection of Toyohashi Uomachi Noh-Gaku Preservation Society

Researcher:

Iwao Nagasaki
(Kyoritsu Women's University)

Yukie Kadowaki
(Japan Arts Council)

Naoto Tanaka
(Bunka Gakuen University
Laboratory for Japanese Dress
Culture)

Mitsuyo Kanai
(Bunka Gakuen University
Laboratory for Japanese Dress
Culture)

Yayoi Nakamura
(Bunka Gakuen University
Laboratory for Japanese Dress
Culture)

Number of Materials: 392 items



1-5. 展覧会の見学

Visiting Exhibitions

In order to build a fashion design archive, we visited exhibitions of related themes and gained valuable knowledge about fashion design materials themselves or about useful information dissemination methods on these materials.

ファッション・デザイン分野のアーカイブ構築に向けて、関連するテーマの各種展覧会を見学した。ファッション・デザイン資料そのものについて、或いはそれら資料に関する情報の発信方法について、貴重な知識を得た。

【List of Exhibits (Domestic)】

1. "The Elegant Other: Cross-cultural Encounters in Fashion and Art" at the Yokohama Museum of Art
2. Permanent Exhibition of The Meiji University Museum
3. Permanent Exhibition of The Kokugakuin University Museum
4. "- Special Exhibition - Origin of SHINTO ~Ancient Japanese Rituals~" at The Kokugakuin University Museum
5. Culture digital library of Traditional Performing Arts Information Center

【List of Exhibits (International)】

6. Permanent Exhibition of The Design Museum
7. "Breathing Colour by Hella Jongerius" at the The Design Museum
8. Kensington Palace
9. Permanent Exhibition of The British Museum
10. Permanent Exhibition of Victoria and Albert Museum
11. "Balenciaga: Shaping Fashion" at Victoria and Albert Museum
12. Permanent Exhibition of The Wallace Collection

【見学した展覧会等一覧（国内）】

1. 横浜美術館「ファッションとアート 麗しき東西交流展」
見学日：2017年6月16日（金）
2. 明治大学博物館 常設展示
見学日：2017年6月16日（金）
3. 國學院大學博物館 常設展
見学日：2017年12月9日（土）
4. 國學院大學 企画展「神道の形成と古代祭祀」
見学日：2017年12月9日（土）
5. 伝統芸能情報館 文化デジタルライブラリー
見学日：2018年1月30日（火）

【見学した展覧会等一覧（国外）】

6. The Design Museum 常設展
見学日：2017年9月4日（月）
7. The Design Museum「Breathing Colour by Hella Jongerius」
見学日：2017年9月4日（月）
8. Kensington Palace
見学日：2017年9月4日（月）
9. The British Museum 常設展
見学日：2017年9月5日（火）
10. Victoria and Albert Museum 常設展
見学日：2017年9月6日（水）
11. Victoria and Albert Museum「Balenciaga: Shaping Fashion」
見学日：2017年9月7日（木）
12. The Wallace Collection 常設展
見学日：2017年9月8日（金）

1-6. シンポジウム・講演会への参加

Participation in Symposiums and Lectures

ファッション・デザイン分野のアーカイブ構築に向けて、関連するテーマのシンポジウム及び講演会に参加した。有用な知見を得るとともに、今後の調査、検討において協力が必要となる専門家に本事業の概要を説明し、継続的な協力を依頼する機会を得た。

In order to build a fashion design archives, we participated in symposiums on related themes. In addition to obtaining useful knowledge, we were able to from networks with experts who seek cooperation in future surveys and studies.

1. デジタルアーカイブ学会設立総会

会場：東京大学 本郷キャンパス 法文二号館 一番大教室
日時：2017年4月15日（土）16：30-17:30

1. Initial meeting of Japan Society for Digital Archive

2. JUNKO KOSHINO 先生特別講演会

「美味しい日本、面白い日本」
会場：文化学園大学 A 館 A201 教室
日時：2017年7月7日（金）13:00-15:00

2. JUNKO KOSHINO Special Lecture
“Oishii Nippon, Omoshiroi Nippon”

3. デジタルアーカイブ学会第1回研究大会

会場：岐阜女子大学 文化情報研究センター
日時：2017年7月22日（土）10:20-16:35

3. The 1st Research Conference of Japan Society for Digital Archive

4. 武蔵野美術大学 美術館・図書館 講演会「デザイン資料の保存修復に関する考え方について」

会場：武蔵野美術大学美術館 美術館ホール
日時：2017年10月4日（水）16:00-17:30

4. Musashino Art University Museum & Library Lecture
“Ideas on conservation and restoration of design materials”

5. IIF Japan シンポジウム

～デジタルアーカイブにおける画像公開の新潮流～
会場：一橋大学一橋講堂中会議場 学術総合センター 2 階
日時：2017年10月17日（火）13:30-17:00

5. IIF Japan Symposium
～ New trends in releasing images of digital archives ~

- | | |
|---|--|
| <p>6. Research Institute for Digital Media and Content, Keio University Symposium
The 7th Toward cultural diffusion and deepening of digital knowledge “Development of contextual networking to distributed museum”</p> | <p>6. 慶應義塾大学 DMC 研究センターシンポジウム
第 7 回デジタル知の文化的普及と深化に向けて「コンテクトネットワークの分散型ミュージアムへの展開」
会場：慶應義塾大学日吉キャンパス西別館 1 階
DMC 展示室
日時：2017 年 11 月 24 日（金）13:00-17:00</p> |
| <p>7. The 1st Symposium of Japan Society for Digital Archive
“Not only copyright! Toward solving new problems of digital archives and legislation”</p> | <p>7. デジタルアーカイブ学会 第 1 回公開シンポジウム
「著作権だけではない！ デジタルアーカイブと法制度の新たな課題解決にむけて」
会場：小学館本社ビル 2 階講堂
日時：2017 年 12 月 5 日（火）15:00-18:00</p> |
| <p>8. The 1st seminar of the Kansai branch of Japan Society for Digital Archive</p> | <p>8. デジタルアーカイブ学会関西支部第 1 回例会
会場：エルおおさか本館 6 階 604 号室
日時：2017 年 12 月 7 日（木）13:00-16:30</p> |
| <p>9. The 2nd seminar in FY 2017 of Mission Management Research Group of Japan Museum Management Academy
“Copyright of Digital Age”</p> | <p>9. 日本ミュージアム・マネジメント学会
ミッション・マネジメント研究部会 平成 29 年度第 2 回研究会「デジタル時代の著作権」
会場：國學院大學 学術メディアセンター棟 5 階 会議室 06
日時：2017 年 12 月 9 日（土）15:00-17:30</p> |

第 2 章 情報の共有と検討

Chapter 2. Information Sharing and Considerations

2-1. 所内会議

In-House Meeting

事業従事者 4 名による会合を、本学和装文化研究所内において定期的に持った。取り組みの核である資料収蔵機関への訪問調査および有識者との面談、また得られた情報を持ち寄りなされるアーカイブ手法に関する諸々の検討は、すべてこの会議においておこなった。

参加メンバー：

近藤 尚子、田中 直人、金井 光代、中村 弥生
(以上、文化学園大学 和装文化研究所)

内容：

- ・ 訪問調査事前、事後打ち合わせ
- ・ 先進的取り組みの調査に関する打ち合わせ
- ・ 有識者との連携に関する打ち合わせ
- ・ セミナーの準備・運営の打ち合わせ
- ・ 報告書の作成
- ・ Web サイトの作成
- ・ アーカイブ手法、データベース横断化についての論点整理
- ・ 事務連絡他

開催日：

2017 年

4 月 7, 13, 20 日

5 月 9, 10, 12, 15, 17, 18, 25 日

6 月 1, 8, 15, 22, 28 日

7 月 4, 6, 7, 11, 13, 19, 24, 27, 28 日

8 月 1, 3, 8, 31 日

9 月 4-7, 15, 21, 26 日

10 月 5, 12, 13, 16, 18, 19, 20, 27, 31 日

11 月 7, 13, 17 日

12 月 6, 15, 28 日

2018 年

1 月 9, 11, 12, 16, 18, 19, 23, 25 日

2 月 13, 20, 21, 22, 28 日

3 月 13, 15 日

全 65 回

In order to advance the project, we regularly held meetings within the Laboratory for Japanese Dress Culture where this base is located. We conducted a survey on visits to collection organizations, interviews with experts, discussions on archiving methods, etc. at the core of our efforts.

Participating members:

Takako Kondo

Naoto Tanaka

Mitsuyo Kanai

Yayoi Nakamura

(Bunka Gakuen University

Laboratory for Japanese Dress

Culture)

2-2. 有識者会議 Conference of Experts

We invited 3 experts on fashion materials, reported on the visit survey conducted in the project and the contents of the review based on it, and got useful information for each. We also received much advice on the direction of the subsequent activities.

We asked for advice, among others:

- A From a viewpoint as a curator, how to proceed with the construction of an archive that the data collection facility can handle.
- B From a viewpoint as a researcher, how to archive content useful for research activities.
- C Toward securing the sustainability of the archive constructed

The 2nd Conference of Experts in Fashion Design Field

Experts:

Iwao Nagasaki

(Kyoritsu Women's University Professor)

Higuchi Kazuki

(Associate Professor, Crosswoman Women's University)

Kazuhito Sawada

(Associate Professor, National Historical Folk Museum)

Attendees:

Takako Kondo, Naoto Tanaka, Mitsuyo Kanai, Yayoi Nakamura (Bunka Gakuen University Laboratory for Japanese Dress Culture)

服飾資料収蔵機関における学芸員経験を持つ同資料の専門家3名を招き、事業内でおこなった訪問調査やこれに基づく検討の内容を報告し、それぞれに対して示唆に富む有益な助言を得た。また、以降の活動の方向性についても多くのアドバイスを受けた。

とりわけ以下の3点について助言を求めた。

- A 学芸員としての視点から、資料収蔵機関が日常業務と並行して対応が可能なアーカイブ構築の進め方
- B 研究者としての視点から、研究活動に有益なアーカイブ内容のあり方
- C 構築したアーカイブの持続性の確保について

第二回ファッション・デザイン分野有識者会議

会場：文化学園大学 和装文化研究所

日時：2017年7月24日（月）

有識者：長崎 巖氏（共立女子大学 教授）

樋口 一貴氏（十文字学園女子大学 准教授）

澤田 和人氏（国立歴史民俗博物館 准教授）

出席者：近藤 尚子、田中 直人、金井 光代、中村 弥生
（以上、文化学園大学 和装文化研究所）

①報告事項

- ・対象資料の範囲、データベース案
- ・今年度中におこなう予定の調査・研究と来年度以降の方向性

②アーカイブ中核拠点構想について有識者からの助言

- ・よく考えられている。とりわけネットワーク構築の考え方は現実味と説得力がある。
- ・「ファッション・デザイン収集対象案」については大分類で細分せず、小分類こそ細かく示した方が良い。
- ・対象資料の和装の概念が不明瞭である。
- ・データベースの検索のカテゴリは図録に記すものが一般的。参考にすべき。
- ・英語対応については、テクニカルタームはほぼ一定であるため作り易いか。
- ・データベースは誰を対象とするのかが重要。併せてプロジェクトのコンセプトも大きく紹介し、学術的意義、社会的意義を明確に示すのが良い。

2-3. 三学連絡会議

Liaison Conference among Three University Institutions

三分野合同で進める本事業においては、その調査、検討の内容について一定の共通性を持たせるため、定期的に各担当機関が集まり、連絡会議をおこなった。

In this project jointly promoted in these 3 fields, we regularly held meetings and exchanged opinions in order to maintain consistency regarding the contents of research.

平成 29 年度第一回連絡会議

開催日：2017 年 5 月 22 日（月） 会場：文化学園大学

平成 29 年度第二回連絡会議

開催日：2017 年 8 月 2 日（水） 会場：文化学園大学

平成 29 年度第三回連絡会議

開催日：2017 年 10 月 16 日（月） 会場：文化学園大学

2-4. 三学実務者会議

Working-level Meetings among Three University Institutions

先掲した三学連絡会議のみならず、併せて実務者レベルでの打ち合わせを数回にわたっておこなった。

We regularly held meetings not only at the liaison conference among 3 university institutions but also at the working-level.

三分野合同打ち合わせ

開催日：2017 年 4 月 27 日（木） 会場：武蔵野美術大学

三分野合同実務者会議

開催日：2017 年 6 月 16 日（金） 会場：神保町

武蔵野美術大学美術館・図書館との打ち合わせ

開催日：2017 年 9 月 14 日（木） 会場：文化学園大学

三分野合同実務者会議

開催日：2017 年 10 月 20 日（金） 会場：文化学園大学

三分野合同実務者会議

開催日：2017 年 12 月 14 日（木） 会場：文化学園大学

三分野合同実務者会議

開催日：2018 年 2 月 20 日（火） 会場：文化学園大学

第 3 章 成果の報告

Chapter 3. Project Achivement Report

3-1. セミナーの開催 Holding Seminars

データベースの公開やアーカイブの構築についての理解を深め、人的ネットワークを構築し、その連携を維持することを目的として、セミナーを開催した。

「染織品の魅力再発見!! —染織資料の活用と情報公開—」

会場：文化学園大学 A 館 066b 教室

日時：2017 年 10 月 24 日（火）13：00-19：00

【プログラム】

- ・ 本事業の概要—これまでの活動のご報告—
田中 直人（文化学園大学 和装文化研究所）
- ・ 講演 1
「近代の染織資料とその活用について」
長崎 巖氏（共立女子大学 教授）

内容：服飾資料の所蔵機関には、近代に製作された染織資料が数多く収蔵されるが、これらが展示、研究に活用される機会は必ずしも多くない。一方で近代の染織資料研究においては、着物などの現物資料のみならず、雛形本や見本裂、見本帳、絵画なども有用な資料であることは広く知られており、これらを集めて一覧化することで見えてくる新たな知見がある。各機関の積極的な情報公開によって、同分野の研究がより活発となる可能性がある。

We held a seminar aimed at deepening the understanding of database publication and archiving construction, and building and maintaining a network of people.

**“Rediscovering the Attractiveness of Textile Materials !!
- Utilization of Textile Materials and Presenting to the Public of Information -”**

【Program】

- ・ Outline of this Project
- Past Activities Report -
Naoto Tanaka
(Bunka Gakuen University
Laboratory for Japanese Dress Culture)

Lecture 1

“Modern Textile Resources and their Utilization”
Iwao Nagasaki
(Professor, Kyoritsu Women’s University)



Lecture 2

“Publication and Network of Digital Archives

- Learning from Europe and the United States Experiences -”

Soichi Tokizane

(Senior Visiting researcher, The University of Tokyo)

・講演 2

「デジタルアーカイブの公開とネットワーク

—欧米の経験から学ぶ—

時実 象一氏（東京大学大学院情報学環 高等客員研究員）

内容：注目を浴びる機会が増えたデジタルアーカイブについて、海外の先進事例、とりわけ Europeana、DPLA の概要を示すことで説明がなされた。また、日本国内のアーカイブ整備については、国主導で進む「ジャパンサーチ」構想の大枠を提示することで解説された。デジタルアーカイブへの参加は貴重なコンテンツを持つ博物館にとってメリットとなる面が少なくなく、分野全体で積極的に検討することが必要である。

Lecture 3

“Fashion Digital Archives and the Basics of Copyright Law

~ Simple Steps for Archives Open to the Public ~”

Toshiaki Kobayashi

(Attorney-at-Law, Kotto Dori Law Office)

・講演 3

「ファッション・デジタル・アーカイブと著作権法の基礎 ～アーカイブ公開のためのシンプル・ステップ～」

小林 利明氏（骨董通り法律事務所 弁護士）

内容：資料のデジタルデータ化とその公開を進めてゆく際に、大きな障壁となるのが著作権トラブルへの懸念である。そこで、著作権問題を正しく理解し正しく公開を進めるための、服飾資料を例にとったチャート化された公開手順が示された。また、EuropeanaFashion や We Wear Culture (Google) など、海外におけるファッションアーカイブの概要紹介もなされた。

・ Information Exchange Meeting

・ 情報交換会

3-2. 関連学会における報告

Reporting at Related Academic Conferences

本事業の取り組み内容を広く発信するため、関連学会において報告をおこなった。

We reported at related academic conferences for the purpose of disseminating the contents of this project widely.

1. デジタルアーカイブ学会

第4回定例研究会

日時：2018年2月9日（金） 16時～19時

場所：東京大学本郷キャンパス工学部2号館9階92B

1. The 4th Workshop of Digital Archive Society

“Toward building a digital archive in the fashion field”

Naoto Tanaka

(Bunka Gakuen University)

『服飾分野におけるデジタルアーカイブ構築に向けての現状と課題』（17:35～18:55）

田中 直人（文化学園大学）

【報告事項】

○はじめに

- ・調査検討の内容および本報告の目的
- ・アーカイブ対象となる資料
- ・服飾資料の蓄積—文化学園の紹介—

○活動内容の報告—アーカイブ構築に向けた3つの活動—

1 ネットワークの構築

収蔵機関への訪問調査、有識者との面談、連携の構築と維持

2 アーカイブ手法の検討

対象資料の検討、アーカイブ内資料の提供方法—課題対応型DBの提案—

3 データベースの管理・運用、利活用

アーカイブの管理・運用に関わる作業、アーカイブの利活用

○おわりに

2. The 2nd Research Conference of
Digital Archive Society

“Study for Fashion Digital
Archive”

Mitsuyo Kanai

(Bunka Gakuen University)

2. デジタルアーカイブ学会

第2回研究大会「産業化するアーカイブ」

日時：2018年3月9日（金）～10日（土）

場所：東京大学本郷キャンパス鉄門記念講堂、
法学政治学系総合教育棟（ガラス棟）

『服飾分野における機関横断型デジタルアーカイブ構築に向けて』（3月10日（土）17:10～17:35）

金井 光代（文化学園大学）

【報告要旨】

文化学園大学和装文化研究所では、2015年から文化庁より委託を受け「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」を推進してきた。ファッション・デザイン分野の機関横断型アーカイブの構築に向けて調査研究をおこない、これまでに24の服飾資料収蔵機関を訪問し、ヒアリング調査をおこなうとともに、連携構築に向けてのネットワークづくりを進めてきた。また、服飾資料、情報学、法制度の専門家や先進的取り組みをおこなっている機関へのヒアリング調査と連携構築も進め、情報収集に努めてきた。

その結果、24の服飾資料収蔵機関の内、データベースを一般公開しているのはわずか10機関にとどまることが明らかになった。各機関とも、データベースの公開に意欲はあるものの、構築・継続的公開のための人員、予算、ノウハウがなく、実際に公開するには至っていない。また、データベース公開の目的、想定利用者が各館で異なることが分かった。横断検索システム構築には、共通の目的、利用者を設定することが重要であるため、その先導役、取りまとめ役を担う拠点の存在が必要不可欠であることも明らかになった。資料のデジタルデータの収集と提供は拠点の核ではあるが、資料収蔵機関に一方的にデータの提供を求めるだけでは、協力を得にくいだけでなく、長期的、継続的に発展していくことは難しいと考えている。そこで、収蔵機関同士の交流の場、服飾研究分野の人材育成の場ともなり得る、ファッションアーカイブ拠点を構想した。



3-3. 三分野合同報告会

Holding Joint Symposiums by Three Fields

本事業における3年間の調査および検討の内容について、三分野合同の報告会をおこなった。

平成29年度文化庁アーカイブ中核拠点形成モデル事業報告
シンポジウム「日本のデザイン資源を考える」
会場：文化学園大学 A 館 201 講堂
日時：2018年1月20日（土）13：30-18：00

【プログラム】

文化庁あいさつ

本事業について 並木 誠士（京都工芸繊維大学 教授）

[第一部] 各中核拠点からの活動成果報告

グラフィック・デザイン分野

平芳 幸浩（京都工芸繊維大学 准教授）

プロダクト・デザイン分野

田中 正之（武蔵野美術大学 教授）

ファッション・デザイン分野

田中 直人（文化学園大学 准教授）

We conducted a joint reporting session on the contents of the survey and examination jointly promoted by the 3 fields.

**FY2017 Agency of Cultural Affairs
Model project for the development
of design archives
Symposium “Thinking about
Japanese Design Resources”**

【Program】

Greeting from the Agency of Cultural Affairs

About this project:

Seiji Namiki

(Professor, Kyoto Institute of Technology)

[Part 1]

Report on activity results from each institute

Graphic Design Field:

Yukihiro Hirayoshi

(Associate Professor, Kyoto Institute of Technology)

Product Design Field:

Masayuki Tanaka

(Professor, Musashino Art University)

Fashion Design Field:

Naoto Tanaka

(Associate Professor, Bunka Gakuen University)



[Part 2]

Present state and issues of design
and archives

Moderator:

Yukihiro Hirayoshi

Guests:

Keiko Ueki

(Chief Curator, Osaka City
Museum of Modern Art Planning
office)

Asako Nakagawa

(Associate Professor, Otsuma
Women's University)

Yohko Watanabe

(Professor, Keio University)

Masayuki Tanaka

Takako Kondo

(Professor, Bunka Gakuen Univer-
sity)

Overall summary:

Seiji Namiki

Information exchange meeting

[第二部] デザイン・アーカイブの現状と課題

モデレーター：平芳 幸浩（京都工芸繊維大学 准教授）

登壇者：植木 啓子（大阪新美術館建設準備室 主任学芸員）

中川 麻子（大妻女子大学 准教授）

渡部 葉子（慶應義塾大学 教授）

田中 正之（武蔵野美術大学 教授）

近藤 尚子（文化学園大学 教授）

全体のまとめ 並木 誠士（京都工芸繊維大学 教授）

情報交換会

会場：文化学園大学 C 館スペース 21

時間：18：30 ～



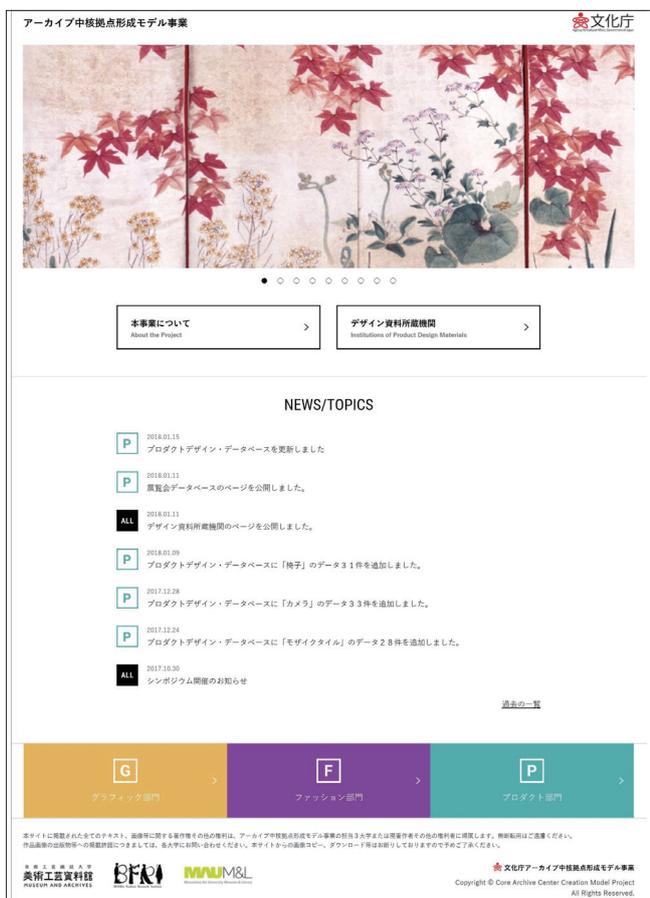
3-4. Webサイトにおける報告

Launching Website and Disseminating Information

1. 本事業の Web サイトの構築

本事業の主旨や活動の概要を広く公開することを目的に、三分野合同の Web サイトを開設した (<http://www.d-archive.jp/>)。

TOP 画面



1. Website

We jointly launched a website in 3 fields with the aim of widely disseminating the outline and activities of this project.

2. デザイン資料収蔵機関ダイレクトリ

本事業における訪問調査及びアンケート調査によって、国内の美術館、博物館が所蔵するデザイン資料の所在を「デザイン資料収蔵機関ダイレクトリ」(<http://www.d-archive.jp/institutions-search>)として地図上に視覚化することを試みた。

ダイレクトリは、プロダクト、ファッション、グラフィックの三分野合同で構築し、資料の種別、年代、制作国から所蔵機関を検索することができる。

2. Directory

【How to search】

Check the check boxes of the items of interest

【Search options】

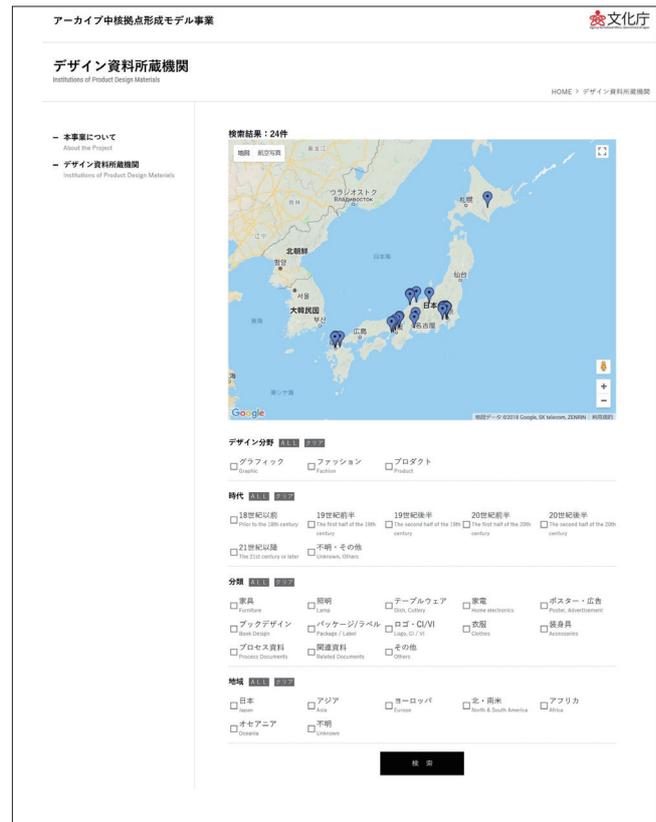
- Fields
 - Graphic
 - Fashion
 - Product

- Production dates
 - Prior to the 18th century
 - The 1st half of the 19th century
 - The 2nd half of the 19th century
 - The 1st half of the 20th century
 - The 2nd half of the 20th century
 - The 21st century or later
 - Unknown, Others

- Object types
 - Furniture
 - Lamp
 - Dish, Cutlery
 - Home electronics
 - Poster, advertisement
 - Book Design
 - Package / Label
 - Logo, CI / VI
 - Clothes
 - Accessories
 - Process Documents
 - Related Documents
 - Others

- Places
 - Japan
 - Asia
 - Europe
 - North & South America
 - Africa
 - Oceania
 - Unknown

検索画面



検索結果



第 2 部 3 カ年を通じた成果報告

Part 2. Project Achievement Report for FY 2015-2017

第 2 部では、3 年間の活動より得られた成果について、本事業において重点業務とされた「ネットワークの構築」、「アーカイブ手法の検討」、「データベースの管理・運用、利活用」に区分、整理して報告する。

第1章 ネットワークの構築

Chapter 1. Building a Network

関係機関および有識者とのネットワーク構築を進めるため、国内の服飾資料収蔵機関への訪問調査、関連分野の専門家との面談、アーカイブ機関の調査、セミナーの開催をおこなった。

○国内の服飾資料収蔵機関への訪問調査

国内の服飾資料収蔵機関 24 館（のべ 29 館）を訪問し、アンケート調査、ヒアリング調査を実施した（表 1 参照）。対象は、本分野における資料データベースの整備にいち早く取り組んだ国立博物館、アーカイブ構築の際に核となるデータを有する家政学系大学の附属博物館、さらには今後のデータ公開が期待される中規模博物館や、貴重な資料を数多く有する企業など、多岐に渡った。

調査では、収蔵資料の内容とともに、それら資料情報のデジタル化や、それを公開するためのデータベースの整備・運営状況について尋ねた。また事業の主旨に従って、横断型のデジタルアーカイブ構築について思うところを伺った。

まず、資料台帳をデジタル化しているかとの質問については、「デジタル化を進め自館 HP で公開している」との回答が 10 館（41.7%）、「デジタル化は進めているが公開はしていない」との回答が 11 館（45.8%）、「紙台帳のみで管理している」との回答が 3 館（12.5%）であった（図 1 参照）。

次に、それら公開状況を資料数ベースで見ると、有効回答が得られた 23 館の資料約 16 万点のうち、「インターネットで公開している資料」は約 1.2 万点（7.6%）、「館内設置端末（来館者は使用可能）のみで公開している資料」は約 1.3 万点（8.4%）であり、双方合わせても 2.5 万点（16.2%）とわずかであることが知られた（図 2 参照）。

さらに、これら 16.2%の資料の公開に至るプロセスに注目すると、公的機関からの補助金を受けて整備されたものが 87.8%、補助金なしで公開に至ったものは 12.2%であることが知られ、自助努力のみでのデータ公開は容易でないという現実が見えてきた（図 3 参照）。しかし近年ではクラウドを利用するこ

表 1. 訪問調査先一覧

年度	訪問機関名
H27	京都服飾文化研究財団 (KCI)
	神戸ファッション美術館
H28	共立女子大学博物館準備室 (現：共立女子大学博物館)
	女子美術大学美術館
	和洋女子大学文化資料館
	杉野学園衣裳博物館
	徳川美術館
	J. フロントリテイリング史料館
	東京家政大学博物館
	高島屋史料館
	奈良県立美術館
	京都府京都文化博物館
	千總ギャラリー (現：千總文化研究所)
H29	京都国立博物館
	国立歴史民俗博物館
	共立女子大学博物館
	東京家政大学博物館
	J. フロントリテイリング史料館
	丸紅株式会社
	武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室
	須坂クラシック美術館
	田中本家博物館
	金沢能楽美術館
	石川県立美術館
福井市郷土歴史博物館	
文化学園服飾博物館	
神戸ファッション美術館	
京都服飾文化研究財団 (KCI)	
京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	

とにより必ずしも大きな初期投資を要しないシステムも提供されつつあることから、自力での公開が進むことも期待される。

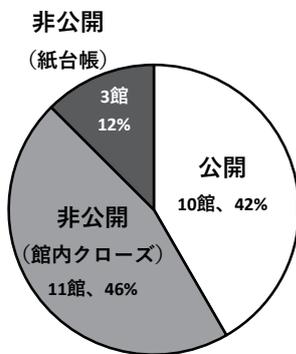


図 1. 自館の DB の公開・非公開の別 (24 館)

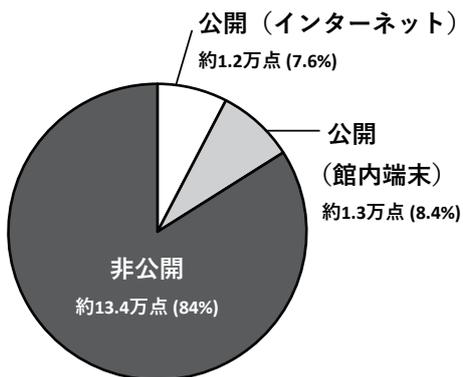


図 2. 公開・非公開の資料数 (23 館)

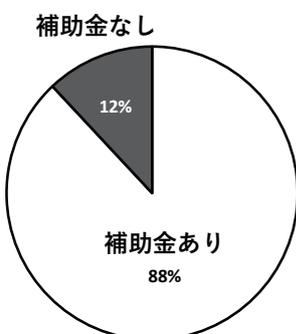


図 3. 公開資料の補助金受給割合 (10 館分 約 2.5 万点)

○関連分野の専門家との面談

服飾資料の専門家や現役のファッションデザイナー、デジタルアーカイブの構築やその公開に伴う権利問題に関する専門家、「ジャパンサーチ」(内閣府主導で設計が進む統合ポータル)の立案、運営者らと、我々が検討する服飾資料の横断型デジタルアーカイブをめぐる意見を交わした。

○アーカイブ機関の調査

国内外 7 つの機関を訪問した (表 2 参照)。いずれの訪問先においても多くの貴重な気づきがあった。以下その一部を記しておきたい。

立命館大学アート・リサーチセンターでは、浮世絵の機関横断型データベースを運用している。機関横断型アーカイブ構築の先駆的な事例として知られる同データベースからは、アーカイブの構築と継続的な運営に関し多くの知見をいただいた。

国立近現代建築資料館では、建築資料収蔵機関のダイレクトリ作成を検討しており、その手法について教授いただいた。なおダイレクトリについては、ともに事業を進めた京都工芸繊維大学美術工芸資料館(グラフィック・デザイン分野担当)がプロダクト、ファッションを加えた三分野横断型の収蔵機関ダイレクトリを作成し、事業成果としてインターネット上に公開している。本分野でも調査をおこなった機関より協力を得て数件の情報を提供した (URL: <http://www.d-archive.jp/institutions-search>)。

The British Museum、V&A (ともに英国) では、データベース公開の意義とその手法について実例を交えながら説明いただいた。とりわけ V&A ではデータベースにおいて公開される資料件数が全収蔵件数の 90% 以上に及んでおり、資料の受入れに付随してデジタル化からデータ公開までが一連のものとしておこなわれること、基本的にすべての資料が公開されることが知られた。

また、博物館・美術館以外における資料データ公開のあり方を知るため、本学と同法人内の施設である文化

学園ファッションリソースセンター、文化学園図書館、文化・ファッションテキスタイル研究所を調査した。それぞれに特色のある公開手法をとっているが、とりわけファッションリソースセンターでは、縫製技術を学ぶために学生が直接手に取って見られることを重視しており、そのための資料収集をおこなっていた。なお、図書館が運営する「貴重書データベース」は、200件以上の貴重書を公開しており、学内外の利用者に広く活用されていた。

○セミナーの開催

平成29年10月24日にセミナー「染織品の魅力再発見!! - 染織資料の活用と情報公開 -」を開催し、長崎巖氏（染織資料の研究）、時実象一氏（デジタルアーカイブの構築）、小林利明氏（知的財産をめぐる権利問題）の3名に登壇いただいた。初めての試みであること、平日開催であることなどから若干の不安があったが、蓋を開けてみれば70名余の聴講者がありその関心の高さが伺われた。参加者からは、データベース構築が求められる社会的背景の理解や、情報公開にまつわる権利問題に関する知識が深まったとの声が聞かれた。

本事業の主旨を考えれば、資料収蔵機関同士、或いは収蔵機関と専門家を繋ぐ網の目状のネットワークを作ってゆくことこそが重要であり、今回のセミナーの開催はその第一歩となったものと感じている。

表2. アーカイブ機関訪問先一覧

訪問機関名
立命館大学アート・リサーチセンター
国立近現代建築資料館
The British Museum (英国)
Victoria and Albert Museum (英国)
文化学園ファッションリソースセンター
文化学園図書館
文化・ファッションテキスタイル研究所

第2章 アーカイブ手法の検討等

Chapter 2. Studying Archiving Methods

アーカイブ手法の検討として、本分野の特性を考えた際に求められるであろう「機関横断性」と「概報性」について検討した。

表 3. 収集情報の設定

項目	
必須項目	種別・分類 (衣服 / 装身具 / 裂 / その他) 名称
第1種 任意項目	収蔵館・収蔵者名 画像 収集資料 URL 資料 No.
第2種 任意項目	時代 国・地域 模様 材質 法量 制作者・制作社 技法 備考

○「機関横断性」について

訪問調査では「学芸業務において他機関運営のデータベースはほとんど使うことがない」との声が聞かれた。理由は、掲載件数の少なさ、スタイル（情報内容・検索手法）の相違による使いづらさ、などであった。この問題の解決のための糸口を示すことが、アーカイブの手法検討の第一の課題であると感じた。そこで注目したのが「機関横断性」である。

これには、各機関が持つ資料データには一切手を加えずに横断検索を可能とする枠組み、つまり「簡略で共通理解の得られやすい検索手法」を用意する必要がある。システムの設計については今後さらなる検討が必要であるが、現時点で不可欠と考える取り組みとして、①各機関からの提供情報のあり方の検討、②シソーラス（一種の類語辞典）の作成があり、①については多くの機関が対応しやすいように情報を3段階に分けて考え、優先度の高い順に提供可能な範囲で協力を依頼することを考えている（表3参照）。

○「概報性」について

訪問調査では、所蔵資料の殆どはネット上での公開がなされておらず、展覧会を含めてもその一部しか見ることができないことが知られた。ただ一方で、紙台帳からデジタルデータへの変換は殆どの機関が着手しており、機関内業務に日常的に活用していることも窺えた。これは、アーカイブ整備の前段階である機関ごとのデジタルデータの蓄積が順調に進んでいることを示すものであり、デジタルアーカイブの実現に可能性を感じさせるものといえる。

そこで、これら蓄積をいかに公開に結び付けてゆくかが課題となるのであるが、これを考えるために、公開件数の増加を決定づける要因となる「資料評価のための知識」、「情報発信のための設備および技術」をそれぞれ縦軸と横軸にとった図を作成した（図4参照）。第1象

限は、評価能力、公開設備ともに充実する機関。第2象限は、資料評価能力は高いが公開設備・技術を持たない機関。第3象限は、資料評価能力、公開設備・技術ともに不足する機関。第4象限は、設備・技術は有するものの資料評価が困難な機関。第2から第4象限にはいずれも目に見える障害があり、公開を進めてゆくためにはこれらを取り除く必要があるといえる。

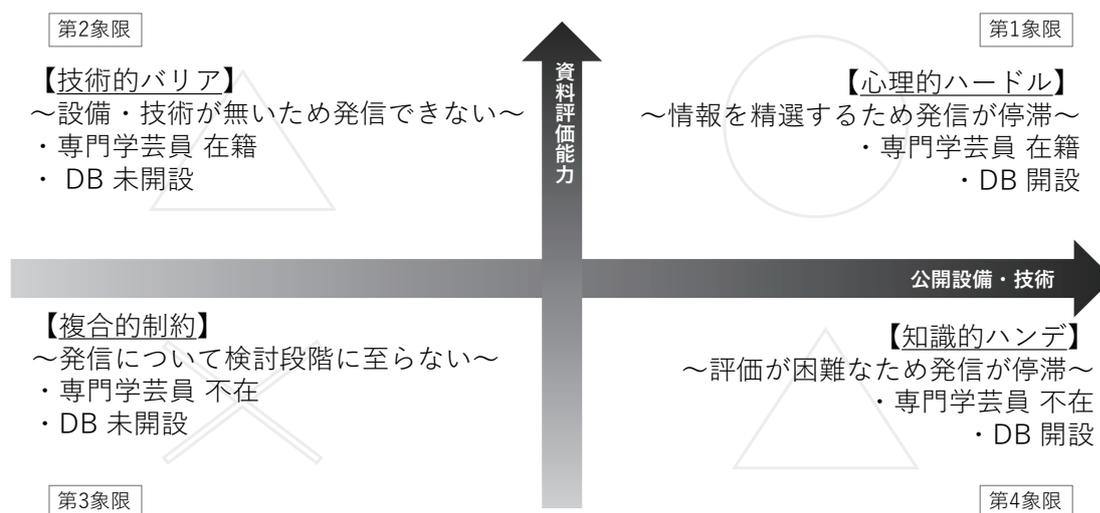


図 4. 公開件数増加を妨げる 4 つの要因

ただこれらの中でとりわけ注目したいのは第1象限である。調査ではここにおいても公開が思うように進まない事実が知られた。理由は様々あるが、通底するのは公開資料や掲載内容を精選するあまり公開に至らないということである。そこには基準を自ら高く設定することにより公開に耐える資料が見つからない、いわば「心理的ハードル」があるように思われる。

このハードルを低減するには、たとえ不完全、未完成的な情報であっても、それが研究者に共有されることの意義を高く評価し、積極的にデータベースに掲出するよう促すことが必要である。また、第2象限の「技術的バリア」の克服には、誰もが利用可能な情報公開の場を公有設備として持つ必要があるろうし、第4象限の「知識的ハンデ」の解消には、資料評価のための専門知識を機関外から呼び込む必要があるとも考えている(図5参照)。

そして、これら3つの対応策を一括りにして具現化するものが、公開情報における「概報性」である。資料情報の概報を公有の検索システムで公開し広く知見を集めることで、いわば「集合知」として資料評価を作り上げることが可能となるのではないだろうか。

このような情報共有が広くスムーズにおこなわれる仕組みがあつてこそ、資料研究は恒常的に発展していくと考える。ここに提案する「機関横断型概報データベース」は、こうした循環を作り出すための取り組みであり、資料研究を活性化するための議論の場を提供する仕組みともなり得ると考えるのである。

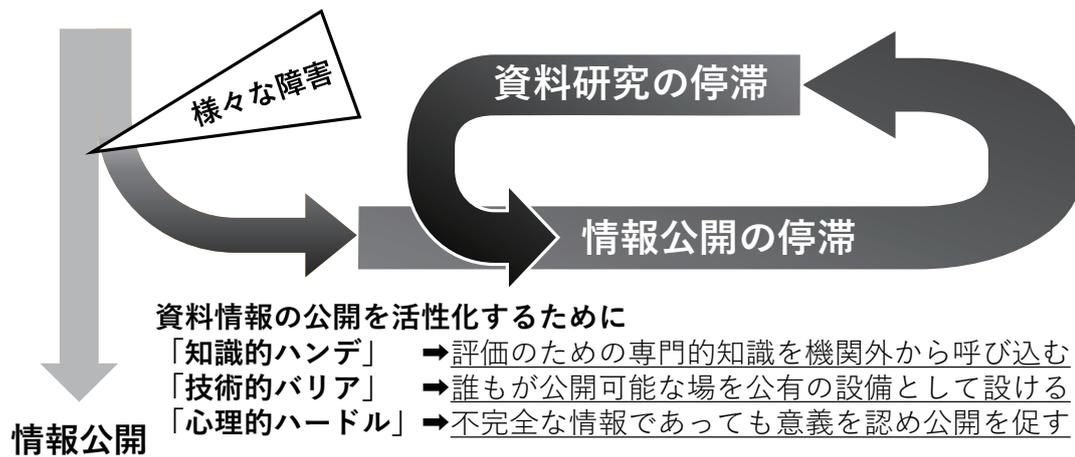


図 5. 情報公開と資料研究の停滞

第3章 データベースの管理・運用、利活用

Chapter 3. The Maintenance, Operation, and Utilization of Databases

データベース運営時にとくに意識すべきことについて議論した。ここではとりわけ2点、ファッション・デザイン分野のアーカイブ特有の検討すべき事柄と、ネットワーク構築とアーカイブの拡充の関連性について記しておきたい。

○本分野のアーカイブに求められる要素

服飾資料の特性を考えると、デジタル情報のみの提供でアーカイブを完結させることは難しいといえる。つまり、服飾資料にはデジタルデータ化できない情報が数多くあり、その代表的なものが布の風合いである。

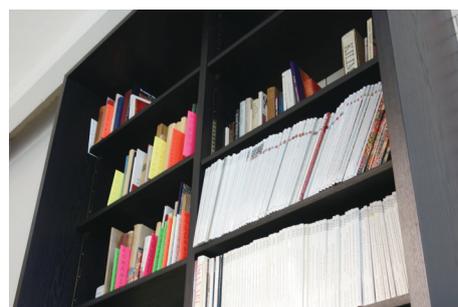
訪問調査をおこなったV&AのThe Clothworkers' Centreは資料の収蔵施設であると同時に、テキスタイルや服飾資料を直接見て触れることのできる施設でもある。事前予約が必要ではあるが利用資格は特になく、誰もが貴重な資料を間近に見ることができることにたいそう驚かされた。

日本と英国の博物館資料に対する考え方の相違を物語るものであり、そのまま取り入れることは困難であるといえるが、触感という服飾資料の情報において欠くことのできない部分を提供する取り組みとして、参考とすべきものであると感じた。

○ネットワーク構築とアーカイブの拡充

3カ年の活動で得た最も大きな成果は、資料収蔵機関および関連分野の専門家との連携基盤が整備されたことである。改めて言うまでもなく、こうした「ネットワークの構築・維持」が情報共有を前提とする「データベースの管理・運用」を可能とするのであるが、これと同時に、管理・運用における共同作業から、さらなるネットワークの拡充がもたらされることも期待できよう。双方は連動して進展してゆくものと言えるのである（図6参照）。

本拠点では、既に訪問調査、セミナー開催などを通じて人的ネットワークの拡充に努めて来たが、今後は「人材育成」「資料保護」の観点で進められる未発掘資料調査を通じて、さらなる連携の構築が可能であると考えている。そうしたサイクルの中で、「機関横断型概報データベース」構築への道筋を、より確かなものに出来たらと考えている。



参考画像：
The Clothworkers' Centre (V&A)

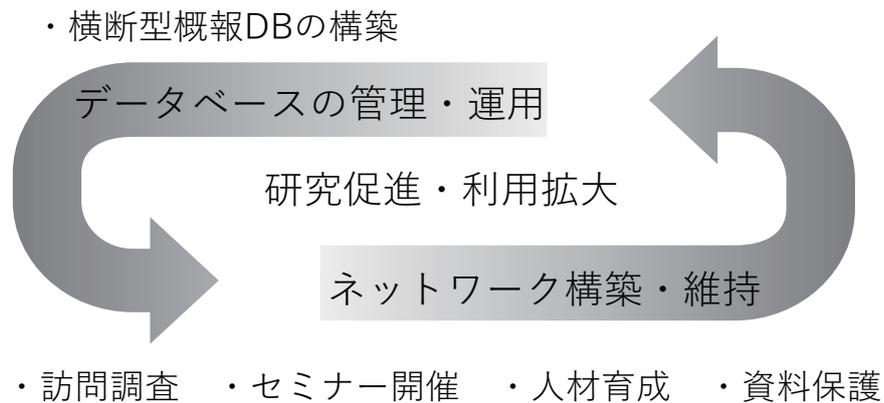


図 6. ネットワーク構築とアーカイブの拡充

ここまで、3カ年の事業を通じて得られた成果について述べてきた。これらの中には、事業期間中に明確な見通しまで示すことができず、残された課題としてここに記さざるを得なかったことがいくつかあった。ただ、収蔵機関の資料管理者、服飾資料の研究者、さらにアーカイブ構築に関する識者の話に耳を傾ける中で、資料情報の発信においてこうあるべきといったものは恐らく無く、故により適切なあり方を求めて考え、協力者と議論を尽くし、試行的取り組みを積み上げてゆくことが必要なのであることが改めて確認された。

アーカイブ構築のためには、今後越えねばならないハードルがいくつもあるかと思われるが、ファッション・デザイン分野のアーカイブ構築にはそれだけの労力をはらう価値があると信じて、今後も多くの方々との連携を大切にしながら、小さな歩みを重ねてゆきたいと考えている。

おわりに Future Plans

文化庁「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」の3年間の事業を終えるにあたり、ご協力いただきましたみなさまに御礼申し上げます。

報告書にもありますように、本事業は本年度を持ちまして、文化庁の事業としては終了となります。最後の1年間は、これまでの検討作業の中で見えてきた形に向かって歩んでまいりました。具体的には、①ネットワークの構築、②アーカイブ手法の検討、③アーカイブの管理・運用、利活用 という3本の柱を立てて進めましたが、到達度はそれぞれに異なります。ネットワークの構築は本事業の中で得られたもっとも大きな収穫であったと思います。海外の先進事例に触れることができましたのも貴重な経験でした。服飾資料を所蔵する多くの博物館・美術館と繋がり情報を共有できたことは、アーカイブ構築という次のステップへの大きな足がかりとなりました。一方、アーカイブを実際に構築し運用していくためにクリアしなければならない課題も見えてまいりました。そしてその課題は、決してたやすく解決できるものでないことも明らかになりました。しかし、本事業の報告をいくつかの場でおこなう中で、このようなアーカイブに対する期待の大きさも強く感じることができました。

わたくしどもは、これからもアーカイブ構築に向けて活動を続けていく所存です。今後ともご協力・ご指導賜りますようお願い申し上げます。

文化学園大学 和装文化研究所
近藤 尚子

添付資料 Appendix

添付資料 I アンケート調査票 I

Appendix I Questionnaire Form I

貴館名： _____ ご記入者氏名： _____ ご記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

アーカイブ中核拠点形成モデル事業 ファッション・デザイン分野

服飾分野資料のデータベースに関する調査

服飾分野資料に関する「館蔵品データベース」と、「横断的アーカイブ」の構築に対するお考えをお伺いし、調査用紙をお送り致しました。お忙しい中を恐縮ですが、お目通しいただけますよう宜しくお願いいたします。

※【 】内には参考として、先行調査においてよく聞かれた意見を記しました。選択肢ではありませんので、現状について自由にご記入ください。

まずは、貴館の服飾資料に関する館蔵品データベース（以下、DB）について伺います。

0. はじめに

0-1. 貴館の服飾分野資料の所蔵数をお教えてください。整理上の区分が設けられておりましたら、それも併せてお教え頂ければと思います。

【およそ 1500 点（日本 750、アジア 150、ヨーロッパ 600）、およそ 100 点（きもの 50、附属品 50）など】

0-2. 資料台帳を紙のほかコンピューターを使って管理されていますか。当てはまるものをお選びください。

- ① 台帳を順次データ化し、その一部、若しくは全部をDBとしてインターネット上に公開している
- ② 台帳を順次データ化しているが、館内業務に使用するためのDBであり、公開はしていない
- ③ 台帳のデータ化はしていない（紙台帳による管理）

0-3. (0-2 で①を選ばれた方) 公開DBをいくつお持ちですか。当てはまるものをお選びください。

- ① 1件 自館で運営するDBが1件ある
- ② 2件以上 自館で運営するDBの他に、他所のDBと提携しデータを提供している
(提携先 (DB名称): _____)

0-4. (0-2 で①を選ばれた方) それぞれの公開はいつ頃から始められましたか。

【構想は 2002 年、準備開始は 2004 年、公開開始は 2006 年秋に始まる、など】

自館DB :

提携DB :

0-5. (0-2 で②③を選ばれた方) 館蔵品DBのインターネット上での公開を今後行なう予定はお有りですか。お有りでしたらそのおおまかな時期についてお教えてください。

0-2 において

- ① を選択： 以下、1 運営体制について、から、9 台帳フォーマットについて、まで順にお答えください。
尚、質問では「自館で運営するDB」の状況についてお答えください。
- ②③を選択： 1 から 5 は省略し、6 大学附属博物館の取り組み、8 横断的アーカイブ、9 台帳フォーマットについて、に
お答え下さい。

1. 運営体制について

1-1. 貴館にはDBの運営（データの維持・管理）に関わるスタッフは何名いらっしゃいますか。

【学芸員1名、他部署付スタッフ1名（臨時）、など】

1-2. DB整備に関して公的な補助金を受けたことはありますか？有ればその時期をお教えてください。

【〇〇省「□□の推進に向けた△△推進事業」2010年～2012年など】

2. 構築目的と想定利用者について

2-1. DB構築の目的として、どういったことをお考えですか。

【館蔵品を広く公開するため、館外者の学習に資するため、専門研究者の研究活動に資するため、広報活動として、など】

2-2. 利用者として誰を想定されていますか（どういった人に使い易いよう作られていますか）。

【来館者一般、学生、研究者、外国の方、資料画像の利用を希望する個人・企業、など】

2-3. 想定利用者（2-2）を意識しつつなされている、構成上の工夫があればお教えてください。

【説明の内容、備考欄への参考文献の掲出、掲載画像の枚数、公開資料の選択、など】

3. 反響について

3 - 1. DBへのアクセス数の推移が分かるようであれば教えてください。

【月平均で、初年度は200、二年目以降は400、など】

3 - 2. DB公開の前後で、来館者数に変化はありましたか。

3 - 3. 利用者からDBについて意見が寄せられたことは有りますか。有れば概略をお教えてください。

4. 資料の選定について

4 - 1. DBで公開される資料は何件ですか。またそれは全館蔵品のだいたい何割にあたりますか。

4 - 2. 多くの館蔵品の中から公開資料を選定する際に、こういったことを優先しますか。

【資料価値の高さ、調書内容の確度、公開の為に改めて内容確認や写真撮影をする必要が無い、など】

4 - 3. 公開する上で留意する点、あるいは公開に不都合な点がありますか。

【調書が曖昧で台帳内容に一部問題がある、など】

4 - 4. 今後も公開件数を増やしてゆく予定はありますか。

5. 画像の公開について

5-1. DBに載る資料画像について、申し込み者に対し有料で使用を許可する仕組みはありますか。

【仕組みはあるが料金徴収は使用目的で判断する、今後徴収することを目指して整備中、など】

5-2. 資料画像の無断転載が問題となっていますが、これを防ぐ工夫はなされていますか。

【転載不可能な設定に切り替える、画像の画素数を落とす、など】

5-3. (5-2とは逆に) 自由な転載を許可し資料を広く知ってもらおうとする動きも一部ありますが、これについてどう思われますか。

【自館では使用料を徴収しているため許可できない、条件付で良い(転載先及び内容の報告の義務付けが必要)、など】

6. 大学附属博物館の取り組みについて(大学附属博物館の方のみお答えください)

6-1. 館蔵資料は学生の研究にどう活用されていますか(過去にあった事例をお教えてください)。

6-2. 館蔵資料は教員の授業や研究にどう活用されていますか(過去にあった事例をお教えてください)。

7. DBに関して問題と感じていることについて

7-1. DBの運営に関して、問題点、疑問、不安など、お考えのことが有りましたらお書きください。

【台帳内容の適正化作業、予算の確保、無断転載への対応、アクセス数の向上、サーバー管理費用の圧縮、など】

続いて、横断的アーカイブについてお伺いします。

8 横断的アーカイブの必要性

8-1. 横断的アーカイブ（複数館からデータ提供を受け横断検索を可能としたもの）を、調査や研究で利用されていますか。以下の①②よりお選びください。

①利用することがある

よく利用されるアーカイブの名称

()

②利用することはない（利用したことがない）

8-2. 現在お感じになられている、これらアーカイブの利点・欠点が有りましたらお教えてください。

【資料名称の不統一、求める情報が載らないこと、欲しい画像が無いこと】

8-3. 横断的アーカイブをお使いになられるとして、どんな検索条件が有用と考えますか。実際に調査・研究の場で必要となりそうな項目を教えてください。

【年代、地域、着用階層、など】

8-4. 服飾関連資料の横断的アーカイブが立ち上がり、実際に台帳データの提供を求められた場合、こういった点の整備がなされれば、前向きに検討されますか？

【横断化目的の説明、需要が存在することの確認、閲覧情報の提供、画像転載に関するルールの明確化、検索方法の適正化、など】

最後に、貴館における資料分類と台帳の作成方法についてお伺いします。

9. 資料の分類、把握と台帳の作成について

9-1. 資料はどのように分類、把握されていますか。(0-1)の問いと重なる部分もありますがお教えてください。

※アンケート後に訪問調査が予定されている場合は、その折に詳しくお伺いしますので、要点のみのご記入で結構です。

9-2. 服飾資料の情報として何が必要であるかを検討しています。貴館の台帳の項目をお教えてください。他分野資料と同じ台帳を使われている場合は、服飾資料にて使う項目のみを選んで挙げて頂ければ結構です。

【資料名・数量・年代・地域・特徴・寸法・着用者・受入・状態・備考の10項目、など】

9-3. (9-2)で挙げて頂いた台帳項目について、おおまかな説明をご記入ください。

【資料名・数量(資料数を「点」で示しセットの場合は「件」で括る。つまりパンツ、シャツ、ベストのセットは「1件3点」としている。)・年代(明確に分からない場合は「世紀」で記入。時代内での区分は前中後の3期としている。)・地域(国、若しくは地域。)・特徴(受入段階で気付いたことを記入。)・寸法・着用者・受入(年月日と受入責任者)・状態(主に傷み具合について書く)・備考(参考文献などを書き入れる)、など】

9-4. 資料名称が所蔵館ごとにまちまちであることが、横断的アーカイブの検討を進めるにあたり大きな問題となっています。貴館では資料の名称はどのようにつけておられますか。

※アンケート後に訪問調査が予定されている場合は、その折に詳しくお伺いしますので、要点のみのご記入で結構です。

アンケートは以上です。お答えを頂きましてありがとうございました。

貴館名： _____ ご記入者氏名： _____ ご記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

アーカイブ中核拠点形成モデル事業 ファッション・デザイン分野

和装資料の所蔵状況に関する調査

本調査では以下の4つのことを伺いたく思います。1では資料の所蔵状況の概要を伺います。これは同調査の根幹をなすものであり、どの分野を重点的に調査すべきかを考えるための基礎情報となります。2および3では収集の手段と方針を伺います。資料の保存を今後どう支援すべきか提案する上で不可欠の情報です。4では将来的に収集・整理の必要性が高まるであろう近代以降の資料について伺います。この時期の資料には評価の定めがたいものも多く扱いが難しいとの声が聞かれます。活用実態を把握し整理することが、今後の収集指針を見定める参考となると考えています。5では和装資料の扱いで課題となることを伺います。本事業の担う最大の役割はネットワーク作りです。セミナー等を通じて問題点とその解決策の共有をはかれたらと考えています。

なお、調査をいたしました結果は年度末に報告書としてまとめ、ご協力を頂きました方々にもお送りする予定でおります。

※【 】内には、参考としまして、先行調査においてよく聞かれた意見を記しました。選択肢ではありませんので貴館の現状に即して自由にご記入ください。

※ここでは和装を「着物の様式を有する服飾（芸能衣裳も含む）」と仮に定義しており、下記の①～④に当てはまるものとします。

①江戸時代以前に作られた日本の衣服、②明治時代以降に作られた着物の様式を有する衣服、③①及び②の時期の装身具、履物、裂などの関連資料、④男性ものも含む

1. まず、現在貴館で所蔵している和装資料について伺います。

1-1. 和装資料は何点ほどお持ちですか。点数でお答え下さい。分からない場合は約〇〇点で結構です。

制作年代・カテゴリー別にお答え下さい。

参考：【衣服〔小袖、袴、羽織、帯、装束など〕、装身具〔簪、帯留、根付など〕、裂〔小袖裂など〕】

カテゴリー 制作年代	衣服	装身具	裂	その他
江戸以前				
江戸末期 明治初期				
明治以降				
戦後				
記入例	約 30	約 50	約 10	約 5

1 - 2. 各制作年代の収蔵作品にどのようなものがあるか、代表的なもの幾つかの概要をお書き下さい。

参考：【江戸時代の能装束、明治の縞帳、大正時代の銘仙、'90年代の人間国宝の着物】

室町以前 _____

安土桃山 _____

江戸 _____

明治 _____

大正 _____

昭和 _____

平成 _____

2. つぎに、現在貴館で所蔵している和装資料の収蔵経緯（購入・寄贈・寄託）について伺います。

2 - 1. 現在貴館収蔵の和装資料の収蔵経緯（購入・寄贈・寄託）を制作年代別にお答え下さい。

大体の点数がお分かりになる方は点数で、お分かりにならない方は割合（％）でお書き下さい。

	購入	寄贈	寄託	不明	合計
近世以前（江戸以前）	(点) _____ %	(点) _____ %	(点) _____ %	(点) _____ %	(点) 100 %
近代以降（明治以降）	(点) _____ %	(点) _____ %	(点) _____ %	(点) _____ %	(点) 100 %

2 - 2. 過去5年間で購入・寄贈・寄託を検討した件数と収蔵に至った件数を制作年代別にお書き下さい。

過去5年まで遡れない場合は、分かる範囲で結構です。その場合は過去〇年間と年数を明記して下さい。

【過去 _____ 年】

近世以前（江戸以前）

{	購入 検討 _____ 件、	内、購入に至ったのは _____ 件
	寄贈 検討 _____ 件、	内、寄贈を受け入れたのは _____ 件
	寄託 検討 _____ 件、	内、寄託を受け入れたのは _____ 件

近代以降（明治以降）

{	購入 検討 _____ 件、	内、購入に至ったのは _____ 件
	寄贈 検討 _____ 件、	内、寄贈を受け入れたのは _____ 件
	寄託 検討 _____ 件、	内、寄託を受け入れたのは _____ 件

2-3. 過去5年間で購入した作品、寄贈・寄託を受け入れた作品を制作年代別にお教え下さい。

過去5年まで遡れない場合は、分かる範囲で結構です。その場合は過去〇年間と年数を明記して下さい。

参考【明治期の振袖1点と着物2点、大正期の銘仙を9点、など】

【過去 _____年】

	近世以前（江戸以前）	近代以降（明治以降）
購入		
寄贈		
寄託		

3. つぎに、和装資料の収集に対する考え方について伺います。

3-1. 今後2~3年の内に、和装資料を収集する予定はありますか。以下の①~③よりお選びください。また、②、③をお選びの方は理由もお書き下さい。

①ある

②ない（ _____ ）

③その他（ _____ ）

（3-1で①③とご回答の方はお答えください）

3-2. 和装資料を収集するのであれば右図のA~D、どの資料が収集対象となるか、該当する箇所に〇印をお付け下さい。（複数回答可）

尚、特に強く収集を意識している対象がありましたら◎をお付け下さい。

ただし、前提条件として貴館の収蔵方針に合致していることとします。

制作年代 収集方法	近世以前 （江戸以前）	近代以降 （明治以降）
購入	A	B
寄贈・寄託	C	D

3-3. 3-2でA~Dを選んだ理由をお教え下さい。

参考【近代以降は寄贈であれば収集を検討する、制作年代に関わらず館に必要とあれば収集する、など】

4. つぎに、貴館所蔵の近代以降（明治以降）の和装資料の展示および貸出について伺います。

4-1. 今後の近代以降（明治以降）の資料について、お考えのところがあれば自由にお書き下さい。

参考【収集・整理に向かうための課題、既に進められている取り組み、など】

4-2. 貴館所蔵の近代以降（明治以降）の和装資料の展示または貸出を行ったことがありますか。以下の①～④よりお選び下さい。

- ①展示も貸出も行ったことがある。 ②展示を行ったことがある。
③貸出を行ったことがある。 ④展示も貸出もしたことがない。

(4-2で①②③とご回答の方はお答えください)

4-3. 展示または貸出を行った資料について展覧会名と開催時期をお教え下さい。数が多い場合には、代表的なものをご記入いただき、他〇件とお答え下さい。

参考【きもの展：平成20年5月開催 他5件、常設展、など】

展示 { }

貸出 { }

(4-2で④とご回答の方はお答えください)

4-4. 展示も貸出もしたことがない理由をお聞かせください。

参考【需要がなかったため、など】

5. 最後に、和装資料の取り扱いで困っていることがありましたらお書き下さい。

アンケートは以上です。お答えを頂きましてありがとうございました。

添付資料Ⅲ デザイン資料収蔵機関概要シート

Appendix III Survey Form to Survey the Outline of the Design Institutions

#	情報項目	記入例	非公開項目
1	名称		
2	英語名称		
3	機関の種類	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 美術館 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 公文書館 <input type="checkbox"/> アーカイブズ機関 <input type="checkbox"/> 教育・研究機関 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> その他()	
4	住所		
5	電話		
6	ファックス		
7	Eメール		
8	URL		
9	部署名・役職名		
10	担当者名(フリガナ)		
11	設立の経緯・歴史		
12	組織		
13	収集方針		
14-1	収蔵している プロダクトデザイン資料	分類 <input type="checkbox"/> 家具 <input type="checkbox"/> 照明 <input type="checkbox"/> テーブルウェア <input type="checkbox"/> 家電 <input type="checkbox"/> プロセス資料 <input type="checkbox"/> 関連資料 <input type="checkbox"/> その他 年代 <input type="checkbox"/> ～1800 <input type="checkbox"/> 1801～1850 <input type="checkbox"/> 1851～1900 <input type="checkbox"/> 1901～1950 <input type="checkbox"/> 1951～2000 <input type="checkbox"/> 2001～ <input type="checkbox"/> 不明・その他 地域 <input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> アジア <input type="checkbox"/> ヨーロッパ <input type="checkbox"/> 北・南米 <input type="checkbox"/> アフリカ <input type="checkbox"/> オセアニア <input type="checkbox"/> 不明	
14-2	収蔵している グラフィックデザイン資料	分類 <input type="checkbox"/> ポスター・広告 <input type="checkbox"/> ブックデザイン <input type="checkbox"/> パッケージ/ラベル <input type="checkbox"/> ロゴ・CI/VI <input type="checkbox"/> プロセス資料 <input type="checkbox"/> 関連資料 <input type="checkbox"/> その他 年代 <input type="checkbox"/> ～1800 <input type="checkbox"/> 1801～1850 <input type="checkbox"/> 1851～1900 <input type="checkbox"/> 1901～1950 <input type="checkbox"/> 1951～2000 <input type="checkbox"/> 2001～ <input type="checkbox"/> 不明・その他 地域 <input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> アジア <input type="checkbox"/> ヨーロッパ <input type="checkbox"/> 北・南米 <input type="checkbox"/> アフリカ <input type="checkbox"/> オセアニア <input type="checkbox"/> 不明	
14-3	収蔵している ファッションデザイン資料	分類 <input type="checkbox"/> 衣服 <input type="checkbox"/> 装身具 <input type="checkbox"/> プロセス資料 <input type="checkbox"/> 関連資料 <input type="checkbox"/> その他 年代 <input type="checkbox"/> ～1800 <input type="checkbox"/> 1801～1850 <input type="checkbox"/> 1851～1900 <input type="checkbox"/> 1901～1950 <input type="checkbox"/> 1951～2000 <input type="checkbox"/> 2001～ <input type="checkbox"/> 不明・その他 地域 <input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> アジア <input type="checkbox"/> ヨーロッパ <input type="checkbox"/> 北・南米 <input type="checkbox"/> アフリカ <input type="checkbox"/> オセアニア <input type="checkbox"/> 不明	

#	情報項目	記入例	非公開項目
15	収蔵資料の検索手段		
16	目録の作成と公開の状況		
17	主な出版物 * 出来るだけ具体的にご記入願います。困難な場合は、概要でも結構です。		
18	開館時間		
19	アクセス		
20	一般公開エリア		
21	一般公開内容		
22	所蔵資料の閲覧者条件 * 複製、デジタルデータなどによる閲覧も含む		
23	資料閲覧サービスの内容		
24	資料複製サービスの内容		
25	記述日(更新日)		
26	記述者名(役職)		

<情報の取扱いについて>

Q1: デザイン資料の収蔵機関として、貴機関情報を公開してもよろしいですか？
(想定: 文化庁アーカイブ中核拠点形成事業ホームページ など)

全項目許可 全項目不可 一部項目不可(「非公開項目」欄にチェック記入)

Q2: 情報公開に当たり、ご希望の条件などがありましたら、ご記入ください。

【記入欄】

Q3: 外部からの問合せに対して、貴機関をご紹介してもよろしいですか？

許可 不可

ご協力ありがとうございました。

本件に関して、その他特記事項などがありましたら、以下備考欄にご記入ください。

【備考欄】

文化庁 アーカイブ中核拠点形成モデル事業
ファッション・デザイン分野
最終報告書
(平成 27 ~ 29 年度)

執筆・編集：近藤 尚子
田中 直人
金井 光代
中村 弥生

発行日：平成 30 年 3 月 31 日

発行者：文化学園大学 和装文化研究所
〒 151-8523 東京都渋谷区代々木 3-22-1
Tel : 03-3299-2531 Fax : 03-3299-2563
<http://www.bfri.bunka.ac.jp/>
<http://www.d-archive.jp/>

